

令和5年度海外事務所研修報告書

イギリスにおける LGBTQ+の人々への  
サポート活動について  
～リーズの事例を中心に～

一般財団法人 自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課  
主事 大島 修平  
令和6年3月

## はじめに

2023年6月23日、日本では「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が公布・施行された。当法第5条では、地方公共団体は、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する施策を策定し、及び実施するよう努めるものとする。」と定められている。

この調査の目的は、主にイギリスのリーズにおけるLGBTQ+の人々への支援活動について事例の紹介を行い、当法律に係る施策の策定・実施を行う地方自治体へ参考材料を提供するものである。

LGBTQ+への理解が進む国際情勢下で、地方自治体がLGBTQ+の人々へ配慮を求められる場面は増えることが予想される。その対応を考える上で、当記事が一助となれば幸いである。

## 目次

第1章 英国のLGBTQ+の現状	3
1.1 英国における統計データの紹介	3
1.2 LGBTQ+の人々の家庭環境・問題について	4
1.3 LGBTQ+の人々の社会的コミュニティについて	5
第2章 LGBTQ+ボランティア団体 The Angels of freedom の活動について	7
2.1 The Angels of freedom とは	7
2.2 活動内容	7
2.3 インタビュー	7
第3章 リーズ市議会におけるLGBTQ+の人々へのサポートについて	9
3.1 シティ・オブ・リーズとは	9
3.2 リーズとLGBTQ+	10
3.3 実際のインタビュー	10
第4章 イギリスの美術館におけるLGBTQ+の展示について	11
4.1 Queer Britain について	11
4.1.1 Queer Britain とは	11
4.1.2 展示について	11
4.2 リバプール博物館について	12
4.2.2 展示について	12
終わりに	14

## 第1章 英国のLGBTQ+の現状

### 1.1 英国における統計データの紹介

イギリスのLGBTQ+権利団体「Stonewall Equality Limited」が公表した、Rainbow Britain Report (2022)<sup>1</sup>によると、イギリスで自分の性的指向がストレートであると認識する人は、若い世代ほど少なくなる。下記はその表であるが、BABY BOOMERS(56-75歳)では、ストレートと認識する人の割合が91%であるのに対し、GEN Z (16-26歳)ではその割合は71%に留まっている。また、当報告書では、GEN Zにおいて、自分をバイと認識する人の割合が、自分をゲイまたはレズビアンと認識する人の割合よりも大きいことは、これまでの研究と異なる重要な事実と述べられている。

#### イギリス国内の性的指向 (世代別)<sup>1</sup>

	GEN Z	MILLENNIALS	GEN X	BABY BOOMERS
STRAIGHT	71%	82%	87%	91%
BI	10%	7%	4%	2%
GAY	2%	3%	4%	3%
ACE	5%	2%	2%	*
PAN	4%	1%	1%	*
LESBIAN	3%	1*	*	*
OTHER	4%	*	1%	*
DON'T KNOW	1%	1%	1%	1%
PREFER NOT TO SAY	3%	2%	1%	2%

.世代の定義は、GEN Z (16-26歳)、MILLENNIALS (27-42歳)、GEN X (43-56歳)、BABY BOOMERS (56-75歳)。

また、次表はゲイ・レズビアンの性的指向を持つ人々との世代別の関係についてまとめたものである。世代が上がるほど、ゲイ・レズビアンの人々との直接的なつながりが多いことが分かる。GEN Xでは、全世代の中で最も「HAVE FRIENDS AND FAMILY」と「ACQUAINTANCES」の割合が高い。報告書によると、その理由は、LGBTQ+解放運動の時代に育ったこと、また、若い世代に比べゲイ・レズビアンとつながりを持つための時間が多くあったことが原因と分析されている。

---

<sup>1</sup>Stonewall Equality Limited.” Rainbow Britain Report (2022)”. Stonewall Equality Limited. [https://www.stonewall.org.uk/resources/rainbow-britain-report-2022?gclid=EAIaIQobChMI3uvo0MqJhAMVrNEWBR0InAO\\_EAAYASAAEgLhtPD\\_BwE](https://www.stonewall.org.uk/resources/rainbow-britain-report-2022?gclid=EAIaIQobChMI3uvo0MqJhAMVrNEWBR0InAO_EAAYASAAEgLhtPD_BwE), (参照 2023-01-31)

## ゲイ・レズビアンの人々との関係について（世代別）<sup>1</sup>

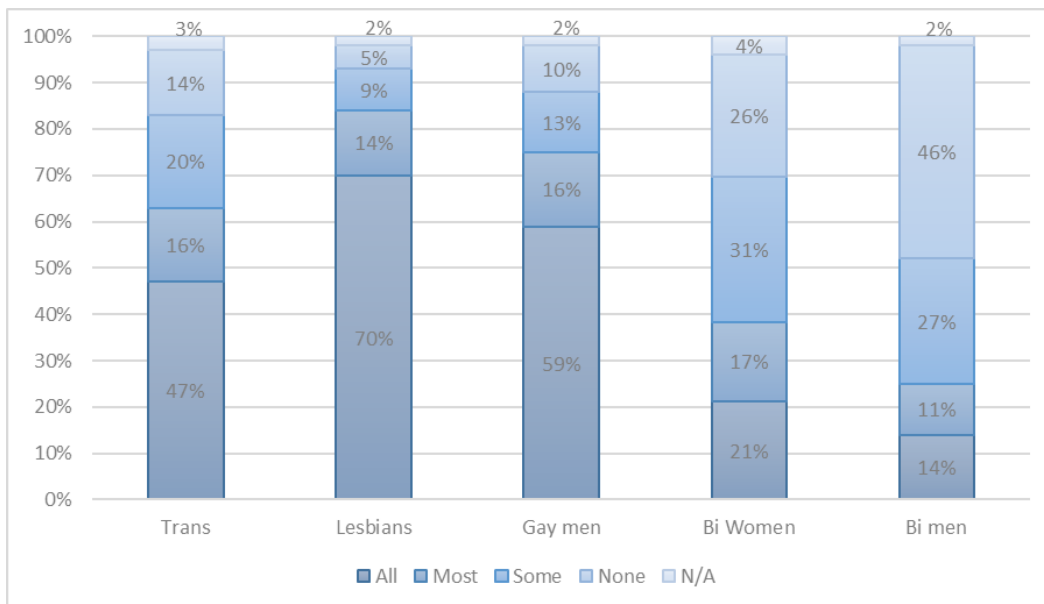
	GEN Z	MILLENNIALS	GEN X	BABY BOOMERS
MET	38%	44%	57%	63%
HAVE FRIENDS AND FAMILY	37%	36%	44%	37%
KNOW OF CELEBRITIES	35%	36%	34%	33%
ACQUAINTANCES	23%	27%	36%	28%
NEVER MET	14%	14%	5%	5%
DON'T KNOW	5%	9%	6%	4%

世代の定義は、GEN Z (16-26 歳)、MILLENNIALS (27-42 歳)、GEN X (43-56 歳)、BABY BOOMERS (56-75 歳)。

### 1.2 LGBTQ+の人々の家庭環境・問題について

下表は、LGBTQ+の人々が家族の内どれくらいの割合の構成員に自分の性的指向を開示しているのかを表している。Allの項目では、Lesbiansの開示率が70%と最も高いのに対し、Bi menの開示率はその5分の1である、14%と最も低い開示率となっている。Trans、Lesbians、Gay Menのグループと比べると、Bi Women、Bi Menのグループでは、家族構成員の全員ではなく、一部の家族のみに性的指向を開示する傾向がある。

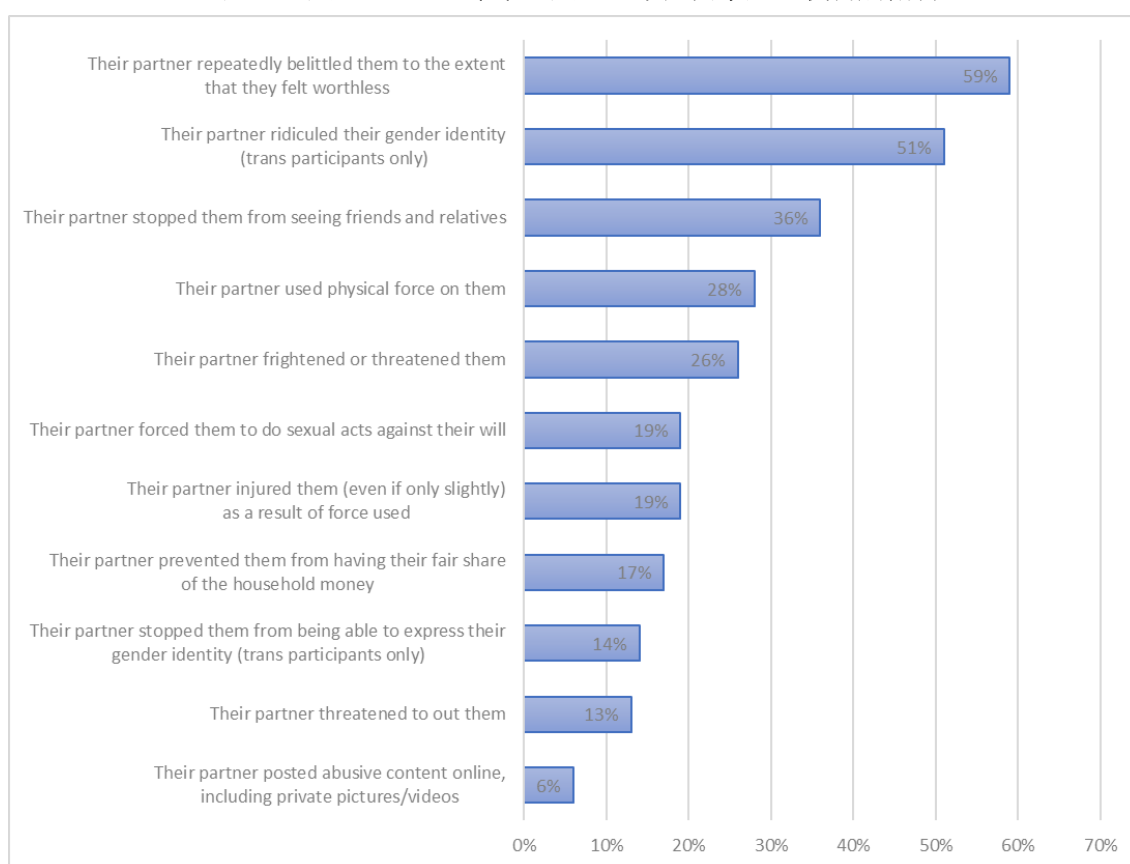
### 家族への性的指向の開示状況について<sup>2</sup>



<sup>2</sup>Stonewall Equality Limited. "LGBT IN BRITAIN HOME AND COMMUNITIES". Stonewall Equality Limited. <https://www.stonewall.org.uk/resources/lgbt-britain-home-and-communities-2018> (参照 2023-01-31)

また、次表は2017年中にLGBTQ+の人々が経験した、家庭内でおきた虐待についての内容ごとの割合を表している。最も割合が高い項目は、Their partner repeatedly belittled them to the extent that they felt worthless（パートナーに自分が無価値だと思うほど軽蔑された）で、59%と約6割に上る。また、上位3項目はいずれも精神面に關わるものであり、LGBTQ+の人々への家庭内虐待の内容は、主に言葉や態度によるものであると考えられる。しかし、直接的な暴力による虐待も決して少なくなく、第4位の Their partner used physical force on them（パートナーに物理的暴力を受けた）の項目は、26%となっている。

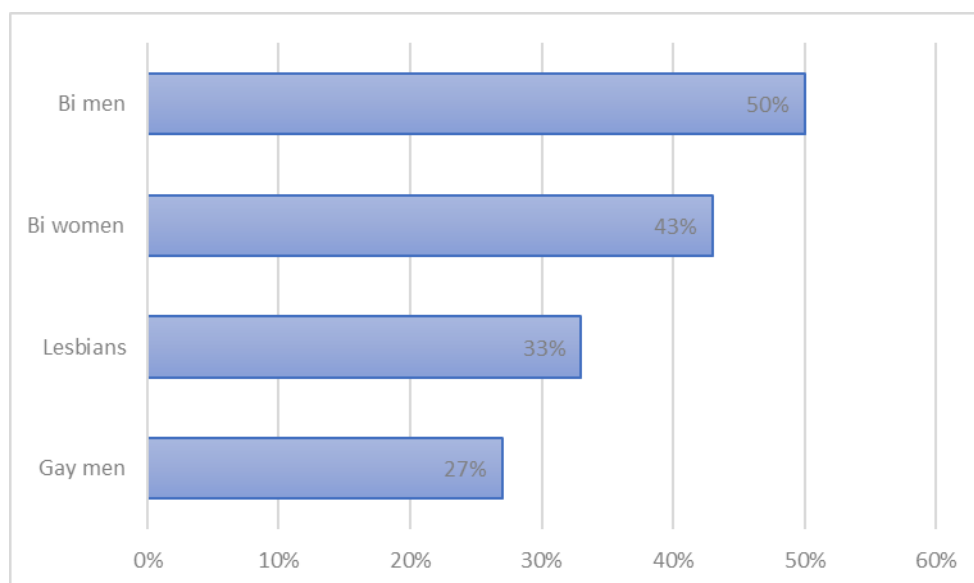
LGBTの人々が受けた2017年中に受けた家庭内暴力の項目別割合について<sup>2</sup>



### 1.3 LGBTQ+の人々の社会的コミュニティについて

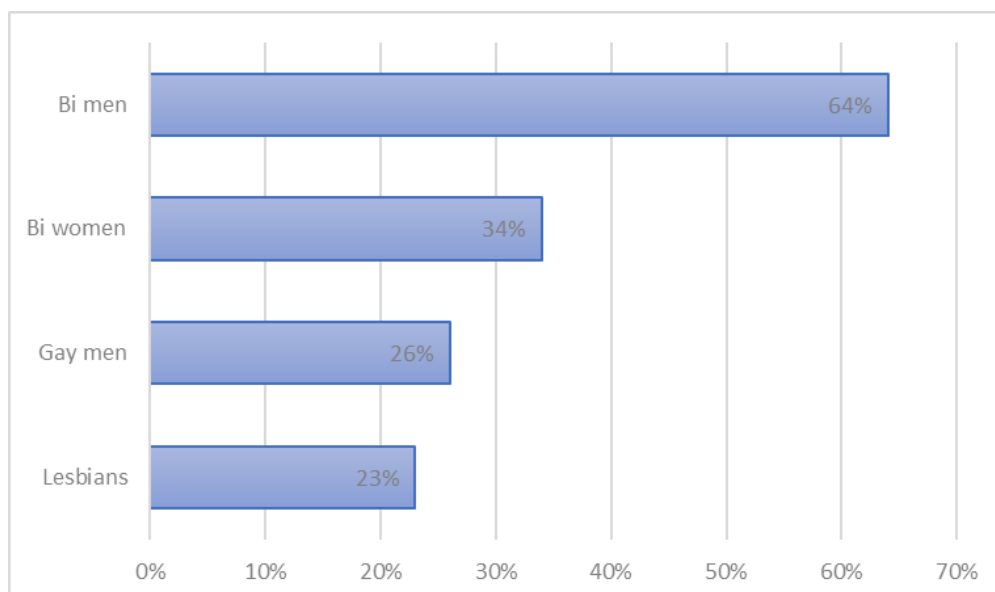
次表は、LGBTQ+に關することを目的とした地元の会合やイベントへ、参加経験がないLGBTQ+の人々の割合を示している。Bi Menの割合は最も高く、その割合は50%であるのに対し、1番低い割合であるGay Menの割合はその約半分の27%となっている。表中のいずれの性的指向であっても、少なくともその半分以上の人々は、LGBTQ+に關する会合やイベントに参加した経験があると言える。

## LGBTQ+に関する地元の会合・イベントに参加経験のない人の割合<sup>2</sup>



最後に紹介する下表は、レズ・ゲイ・バイの人々の内、所属する宗教団体へ性的指向を開示していない人の割合を示している。この表でも Bi Men の項目の割合が最も高く、2位の Bi Women の割合である 34%の約 2 倍となる、64%に上る。信仰する宗教によっては、性的指向について言及がある場合があるが、それでも一定数の人々は性的指向を開示している。

## 所属宗教団体へ制定指向を開示していない人の割合<sup>2</sup>



## 第2章 LGBTQ+ボランティア団体 The Angels of freedom の活動について

### 2.1 The Angels of freedom とは

The Angels of Freedom<sup>3</sup>とは、2017年12月に代表者 Rob Wilson により設立された、LGBTQ+コミュニティへの支援を目的とするボランティア団体である。リーズを中心に活動し、リーズ市議会、イギリス鉄道警察、ウェストヨークシャー警察から支援を受けている。リーズ市議会のWEBサイト<sup>4</sup>では、街のLGBTQ+サポート活動の事例として紹介されている。

### 2.2 活動内容

メインの活動は、毎週金曜日の夜に行われる、ストリートサポート。ビブスを着用する等目立つ服装をし、路上で道行くLGBTQ+の人々と交流を行う。必要に応じて、トレーニングを受けたチームメンバーが、精神的なケアを行う。ストリートサポートのほか、毎月第1火曜日のソーシャルカフェ、毎月第3水曜日の社交パーティー、LGBTQ+の人々を対象としたバドミントンやサッカークラブの運営など、その内容は多岐にわたる。主にInstagramを用いて広告を行っている。最新の情報はInstagramアカウント Angels of Freedom Leeds(ユーザ名: leedslgbtangels)をチェックしてほしい。

### 2.3 インタビュー

日時：2023年11月7日(火) 19:00 ~ 20:00

場所：The Bradbury Building (@リーズ)

インタビューの相手：Rob Wilson (設立者)

- ・The Angels of freedom を設立したきっかけは何か。

The Angels of freedom を立ち上げる前に、既に多くのボランティアコミュニティに所属・活動していたが、各コミュニティの結束力の弱さに疑問を持つようになった。また、禁酒を始めたことで周りの人との関係性が変化し、アルコールを抜いたコミュニケーションに居心地の良さを感じるようになった。居場所がないと悩むLGBTQ+の人々へ、アルコールに頼らない避難所のようなコミュニティを作りたいと考え、The Angels of freedom を立ち上げた。かつてバーのマネージャーとして働いていたときの人脈を活

---

<sup>3</sup> The Angels of freedom. “Angels of freedom”. Angels of freedom.

<https://www.angelloffreedom.org.uk/> (参照 2023-01-31)

<sup>4</sup> Leeds city council. “LGBTQ+”. “Visit Leeds”. VISIT LEEDS.

<https://www.visitleeds.co.uk/lgbtq/> (参照 2023-01-31)

かし、周りの人々と協力しながらコミュニティを発展させてきた。

- どのような活動支援を受けているか。

民間団体、募金団体、リーズ市議会議員から活動資金の提供を受けている。しかし、リーズで活動する LGBTQ+ のボランティア団体は 1 つではないため、資金が分散してしまうことが課題。リーズ市議会とはパートナーシップイベントをいくつか行っており、ホモフォビア、バイフォビア、トランスフォビアに対するインターナショナル・デーの支援を行っている。

- The Angels of freedom を運営する上で、最も大変なことは何か？

ボランティアのほぼ全員がフルタイムワーカーであるため、時間の管理が最も難しい。中心的なメンバーに運営の大きな負担がかかっており、燃え尽き症候群にかかり辞めてしまうリスクが大きいと考えている。

- The Angels of freedom にとって、最も大きな課題は何か？

公的機関からの信頼がまだ高いとは言えず、警察やその他行政機関が、The Angels of freedom メンバーの家やイベント会場に訪れることがあること。しかし、それは同時にメンバーが気軽に行政機関に相談できる環境でもあり、この環境を活かしたいと考えている。

- The Angels of freedom のリーダーとして、将来何をしたいか。

現在の組織運営では、中心メンバーに大きな負担がかかっており、メンバーの欠落が起こった場合、活動の継続は不可能となる。そこで、現在の組織を母体とした第 3 セクターを設立したいと考えている。もしも設立ができれば、人事の問題や資金の問題も解決が容易となり、活動を確実に続けていくことができると考えている。





Rob Wilson 氏（左）と筆者（右）



ソーシャルカフェの店内の様子。  
無料でコーヒー、クッキーが配られた。

### 第3章 リーズ市議会における LGBTQ+ の人々へのサポートについて

#### 3.1 シティ・オブ・リーズとは

イギリスの中心部に位置する、国内で3番目に大きいシティである。人口約81万2,000人、面積は213スクエアマイル（約552km<sup>2</sup>）<sup>5</sup>。

市内にはリーズ大学をはじめ5つの大学があり、国の平均レベル以上の教育を提供できる街としてアピールしている。また、国立劇団「オペラ・ノース」や有名バレエ団「ノーザン・バレエ」の活動地域である一方で、プロサッカークラブ「リーズ・ユナイテッドFC」やプロラグビークラブ「リーズ・ライノス」のホームでもあり、豊かな文化を持つ地域である。

<sup>5</sup> Office for National Statistics. "Leeds Local Authority 2021 Census Area Profile". Office for National Statistics.

[https://www.nomisweb.co.uk/sources/census\\_2021/report?compare=E08000035](https://www.nomisweb.co.uk/sources/census_2021/report?compare=E08000035)（参照2023-01-31）

## 3.2 リーズと LGBTQ+

### ・ VISIT LEEDS<sup>6</sup>について

リーズ市議会が運営する観光案内 Web サイト VISIT LEEDS では、LGBTQ+の人々を対象としたページを作成している。バーやナイトクラブ、観光スポットのほか、バドミントン、ラグビーなどのスポーツクラブの紹介も行われている。リーズ市議会のほかにも、リーズ大学が LGBTQ+の人々を対象とした観光パンフレットを作成しており、町全体として LGBTQ+に関する観光を盛り上げようとしている機運が感じられた。

### ・ リーズプライドフェスティバル<sup>7</sup>

毎年8月の初めの週末、リーズでは40,000人もの参加者を集める、プライドフェスティバルが開催される。スポンサーのほとんどは LGBTQ+ 団体を含む民間の団体であるが、リーズ市議会も出資を行っており、高速道路管理会社や警察と連携し交通面からの運営支援も行っている。

## 3.3 実際のインタビュー

日時：2023年10月27日（金）9：00～10：00

場所：Leeds city council

インタビューの相手：Hannah Bithell 議員、Geoffrey Turnbull 議員

### ・ LGBTQ+の政策に関わるようになったきっかけは何か。

（Hannah 議員）自分は LGBTQ の + 人間であり、幼少の頃に虐待やいじめを経験した。しかし、LGBTQ+の人々に関する法整備は急激に進み、同性婚が実現するなど、行政上の保護が厚くなってきている。LGBTQ+に関する法制度をさらに拡充したいと考え、議員として働くことを決めた。

### ・ The angels of freedom のような LGBTQ+のボランティア団体を、どのようにサポートしているか。

（Hannah 議員）助成金制度を通じてサポートしている。LGBTQ+のボランティアグル

---

<sup>6</sup> Leeds city council. “LGBTQ+”. “Visit Leeds”. VISIT LEEDS.

<https://www.visitleeds.co.uk/lgbtq/>（参照 2023-01-31）

<sup>7</sup> LeedsLGBT+Hub. “LGBT+ Inclusive Leeds - Current and Future Work”. 2018-06.

<https://democracy.leeds.gov.uk/documents/s177906/LGBT%20Inclusive%20City%20Report%20Appendix%201%20180618.pdf>（参照 2023-01-31）

ープが市議会へ活動内容の申請を行うと、それに応じ助成金を提供する仕組み。また、各ボランティアグループへの行政に関する情報提供や、提出された意見の市議会への共有を行っている。さらに、現在、「プライド」と呼ばれる組織を立ち上げ、LGBTQ+の人々を対象とした、コミュニティセンターの立ち上げに関わっている。

(Geoffrey 議員)

市議員の中で、LGBTQ+政策のリーダー、副リーダーを定めている。目に見える形で代表を置いていることは、LGBTQ+の活動を推し進める上で大きな意味がある。

・LGBTQ+の政策を担当する上で、一番大変なことは何か。

(Hannah 議員) 現在「プライド」の運営リーダーを務めているが、その中でもとりわけ大変で時間をかけていることは、トランスジェンダーに関する啓発活動である。トランスジェンダーの人権は、イギリス国内ではまだ議論の段階である。自分はトランスジェンダーの人権を信じているが、世の中にはまだ差別意識があり、SNSでヘイトスピーチなどの虐待が日々行われているのが現状である。そして、それに対する効果的な対策はできずにいる。また、トランスジェンダーに対する考え方の違いから、LGBTQ+のコミュニティの中でも分断が起きており、反トランスジェンダーの人々によりその分断が助長されている。

・議員として、将来どのような活動をしたいか。

(Hannah 議員) 私は肥満者の権利の擁護者でもあるが、LGBTQ+でありかつ肥満の人々の健康をサポートしたいと考えている。Leeds 大学と協力し、LGBTQ+の肥満者に対するピアサポートグループの研究を行っている。

## 第4章 イギリスの美術館におけるLGBTQ+の展示について

### 4.1 Queer Britain について

#### 4.1.1 Queer Britain とは

ロンドン・キングスクロス駅の近くにある、イギリスで初めての、そして唯一のLGBTQ+博物館。2018年2月、雑誌「Gay Time」の元記者である Joseph Galliano により設立された。入場料は無料。慈善事業団体として登録されている。

#### 4.1.2 展示について

30分程度で全て回れるような小さな美術館。LGBTQ+の人々が今までどのように権利を獲得してきたか、実物・映像・音声資料の展示が行われており、筆者が訪れたときは平日であったにもかかわらず多くの来客があった。

フレddie・マーキュリーの履いていたジーンズや、エルトンジョンが17歳の自分にあてた手紙など著名人に関する展示もあり、コレクションの種類は幅広い。



Queer Britain の展示



ロック・バンド Queen のボーカル  
フレddie・マーキュリーのジーンズ

## 4.2 リバプール博物館について

### 4.2.1 リバプール博物館とは

1851年、第13代ダービー伯爵エドワード・スミス＝スタンリーが自身のコレクションをリバプールの街に寄贈したことが始まりである。現在は初代「世界博物館」に加え6つの博物館が増設され、英国で最も多くのコレクションを収容する博物館の1つとなっている。

### 4.2.2 展示について

リバプール博物館では、LGBTQ+オーディオトレイルという、音声ガイドサービスを提供している。次頁にある写真のQRコードを読み込むと動画再生ページにジャンプし、各展示物の説明を聞くことができる。

展示の種類は豊富で、古代ギリシャにまつわるものから、リバプールのロック・バンドのメンバーが描いた自画像まで、多様な展示を楽しむことができる。



美術館の各所に、このようなオーディオトレイルのQRコードが置いてある。



リバプールで活躍したロック・バンド  
デッド・オア・アライヴのボーカル  
ピート・バーンズの自画像

## 終わりに

私は名古屋市役所から自治体国際化協会へ派遣されているが、本記事の執筆を機に、名古屋市のLGBTQ+コミュニティについても調査を行った。名古屋市にも、リーズに比べると小規模ではあるものの、名古屋あおぞら部（Twitter: @nagoya\_aozora）などLGBTQ+コミュニティがいくつか存在することが分かった。The Angels of freedomのように、行政からサポートを行う体制の構築にはまだ時間がかかると予想されるが、市役所としてサポートできるものを考えていく必要があると感じた。

LGBTQ+の人々へのサポート・ケアには、きめ細やかな対応ができる地方行政が効果的であり、各地方自治体は、ボランティア団体などの民間団体と協力しながら活動を進めていくと良いと考える。